

学年	高校3年	教科	保健体育	科目	体育	単位数	3
教科書名	なし			副教材名	なし		
クラス・コース	高校3年芸能(女子)			担当者名	本橋 由梨		

I. 目標

運動の実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさを味わうとともに、体力の向上を図り、生涯にわたるスポーツライフの実現を目指す。また、授業を通じて自己を高める、他者との協調などの「生きる力」を育む。

II. 授業のねらい

各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに体の調子を整える。また、体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

III. 授業の進め方

1. 授業のはじめに本時の内容と進め方を説明する。内容をよく理解し、担当教諭、体育委員の指示に従ってスムーズに授業が進められるようにすること。
2. 授業場所の割り振りや学校行事、天候などによって計画された種目ができない場合がある。雨天により該当施設が使用できない場合は他の施設を使用し、他種目を行う場合がある。
3. 各種目、基礎・基本の動作を重視し授業展開を行い、実践（ゲームや試験）につなげていく。

IV. 学習上の留意点

1. 体調には十分配慮し、万全な状態で体育にのぞめるように配慮すること。体調が悪い時には、早めに担当者に告げること。
2. 実技を受ける服装は学校指定としているもの以外は禁止とする。
3. 各種目によって適した運動施設(体育館、水泳場、屋上運動場、ダンスホール、武道場)で授業を受けること。またそれぞれの施設に適した学校指定の運動着を着用すること。
4. 十分に準備運動を行い、怪我や事故のないように注意する。
5. 各授業において、柔軟性を高め、体力を増強し、能力を高めていくように補強運動などを積極的に取り入れ、実施していく。

VI. 定期試験

1. 実技テストの内容は授業で説明する。
2. 何らかの理由により実技テストが受けられない場合は、レポート課題を課すことがある。

VII. 評価の方法

1. 関心・意欲・態度、運動技能、出欠席などを総合的に評価する。
2. 原則、見学だけでは単位認定をしない。

VII. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	○集団行動	○集団行動 ・ラジオ体操の正確さ ・集団行動の正確さ	○集団行動、体育祭 ・ラジオ体操第一を正確にできるようにする。 ・集合、解散、列の増減、礼などの集団行動の基礎を学び体育祭につなげる。
	5			
	6	○体育祭練習	○体育祭練習 ・種目のルール確認 ・種目練習 ・招集の整列確認	○体育祭練習 ・種目内容を把握して適した行動がとれる。 ・意欲的、積極的に取り組む姿勢がとれる。 ・他と協力をして行程進行に起因することができる。
	7	○マット運動	○マット運動 ①基本の技能の技がこなせているか。 ②応用では各自の能力に合わせた技を選択して習得し、それらの技を組み合わせ「はじめ - なか - おわり」という連続した技が円滑にできるようにする。 (評価：実技試験)	○マット運動 ・前転、後転、開脚前転、開脚後転、伸膝後転、後転倒立、側転、ハンドスプリング、ロンダートなどの試技を連続して行う。
		○バレーボール	○バレーボール ①直上トス ②スパイク (評価：実技試験)	○バレーボール ・セッターに対して、自分でボールを出してアタックを完成させる。三段攻撃の活用。 ・スパイクは両足でしっかり踏み切る。

一 学 期	9	○バスケットボール	○バスケットボール ①ゴール下左右シュート ②レイアップシュート ③試合 (評価：実技試験)	○バスケットボール ・ドリブルシュートを習得する。 ・正しい姿勢でのシュートができるようにする。 ・中距離のシュートを取得する。 ・1対1の攻撃方法を習得する。 ・関係プレーを習得する。 (スクリーン、シザース) ができ 実践で活かす。 (試合)
	10	○水泳 (中間試験)	○水泳 ①50m タイム計測 (自由形) ②25m タイム計測 (背泳ぎ) (評価：タイム計測)	○水泳 正しい泳法を身につける。(自由形・背泳ぎ) ・泳速度の向上。(タイム短縮) ※自分の目標に応じた泳ぎ方をマスターし、速く泳いだり続けて長く泳いだりすることができるようにする。
	11	○フットサル	○フットサル ①ドリブル+シュート精度 ②試合 (評価：実技試験)	○フットサル ・ドリブルからシュートまでの一連の流れをスムーズに行う。 ・パス、トラップの精度を高める。 ・ボールのキープ力を高める。 ・習得したことを実践で活用する。(試合)
	12	(期末試験)		